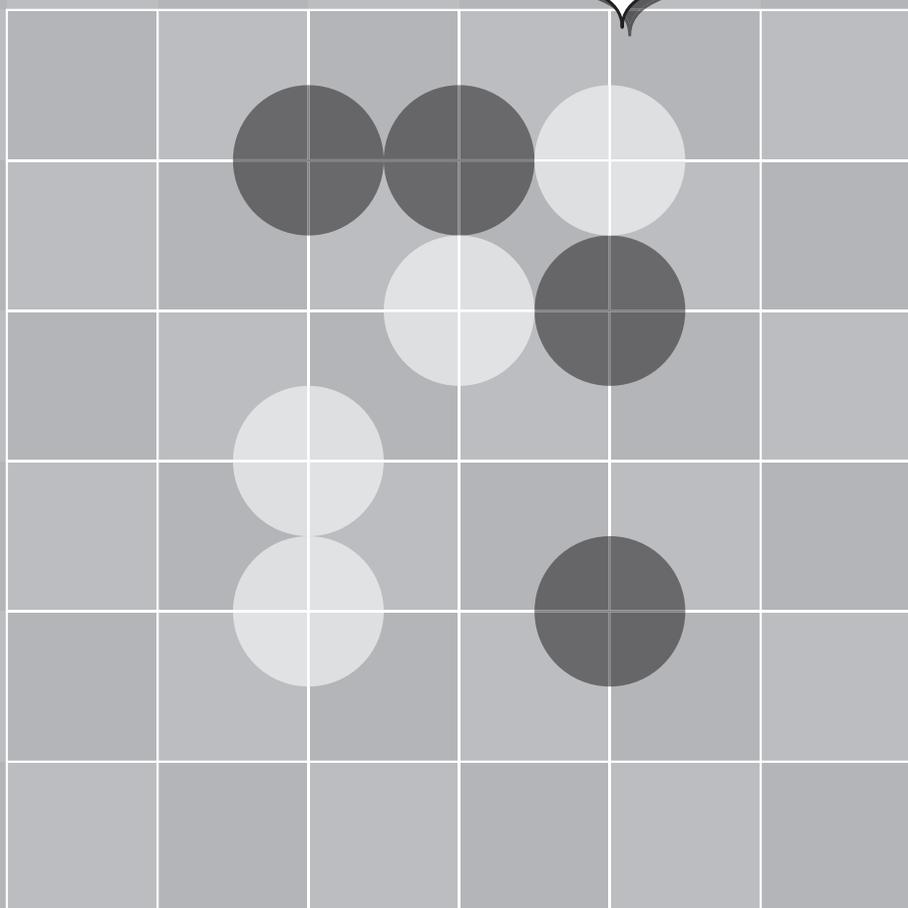


囲碁入門

7路盤



1

第4章

目次

はじめに――2／基本の道具――4／基本のマナー――5／囲碁の目的――6／本書でおぼえるルール――8

第1章

石の置き方と石のつながり〈ルール1・ルール2〉――11

ルール1 黒石と白石を交互に交点に置く――12

ルール2 縦横の線で隣り合った石は二つの仲間になる――13／①石を置いて孤立した石をつなげる――19／②相手の石がつながらないように切る――25

第2章

石の取り方〈ルール3〉――33

ルール3 線の出ていない石は取れる――34／①仲間の石の取り方――39／②石を置いて相手の石を取る――45／③相手に取られないように逃げる――57

第3章

置けない場所とその例外〈ルール4・ルール5〉――65

ルール4 線が出ない所には置けない(着手禁止点)――66

ルール5 線が出ない所でも、相手の石を取れる場合は置ける――73

第4章

総合問題――81

おわりに――92

コラム………囲碁の歴史――32／世界の囲碁――64／マナーの大切さ――80

第4章

総合問題

石の置き方や取り方はわかりましたか？

それでは、復習を兼ねて

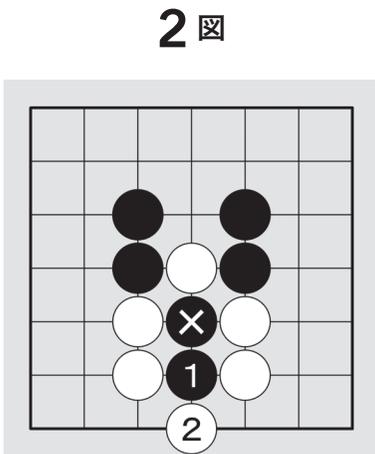
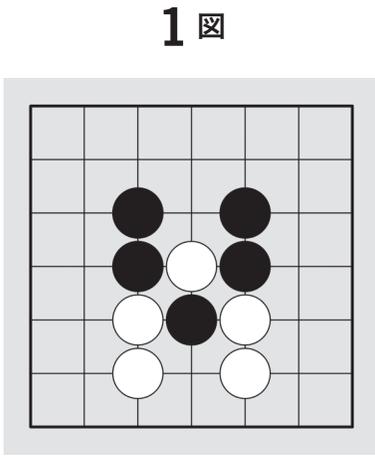
総合問題に挑戦してみましよう

総合問題

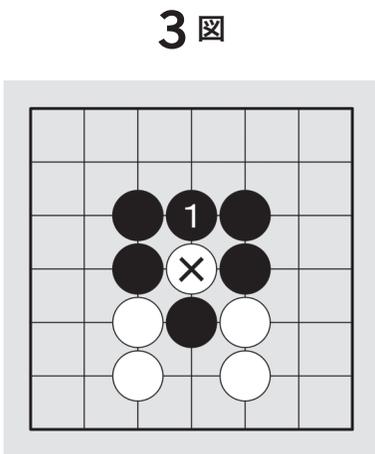
57 ページで仲間をつなげて相手の石から逃げる方法を紹介しましたが、取られないための方法がもう一つあります。

それは、「相手の石を先に取って、自分の石から出ている線を増やして逃げる」というものです。

1 図の場合、黒はどこに置きます



...→ ●×2



...→ ○

か？ 石をつなげることばかりを

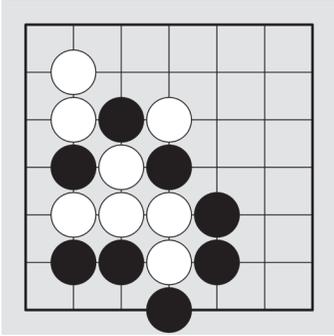
考えると、2 図の①へ逃げ出したくなるどころですが、次の手で②と置かれて取られてしまいます。

このような場合は、3 図の①が上手な一手です。先に①を取ること、黒が助かりました。

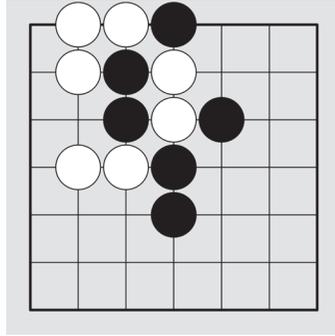
まさに「攻撃は最大の防御なり」。この逃げ方も参考にして、総合問題に挑んでください。

上手に対戦するコツ
 ・相手の石を先に取ること、
 自分の石の線を増やして逃げる

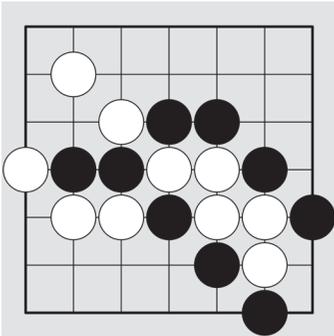
第 124 問



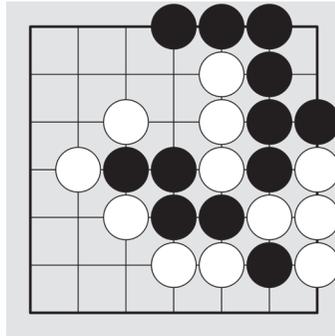
第 121 問



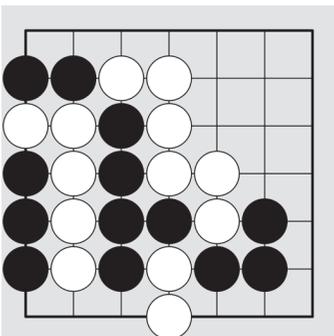
第 125 問



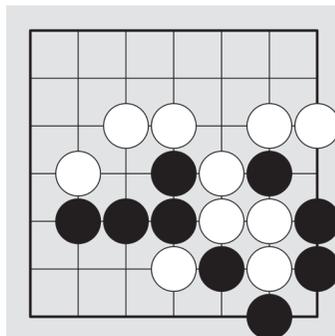
第 122 問



第 126 問

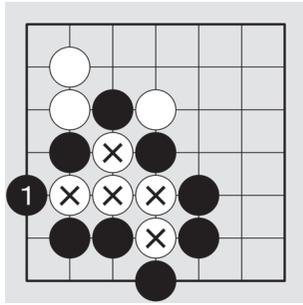


第 123 問

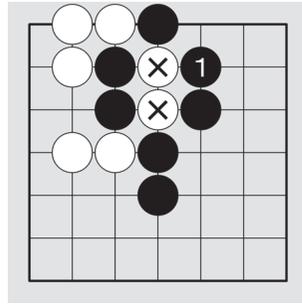


黒にとつて一番良い所に、一つ置いてください

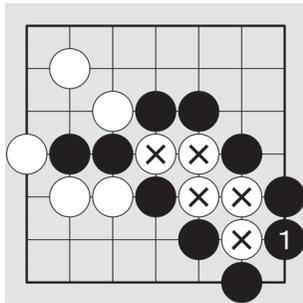
第 124 問



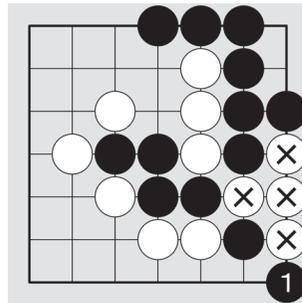
第 121 問



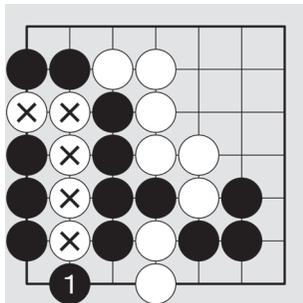
第 125 問



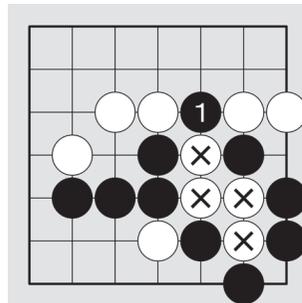
第 122 問



第 126 問

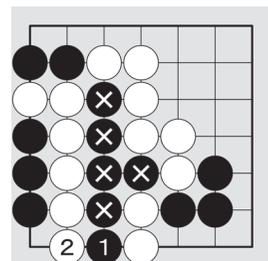


第 123 問

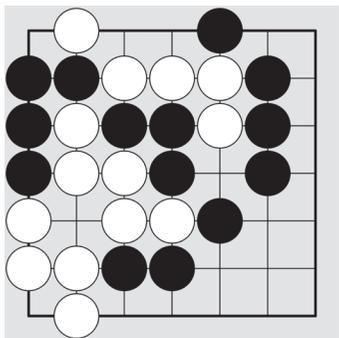


第 126 問 参考

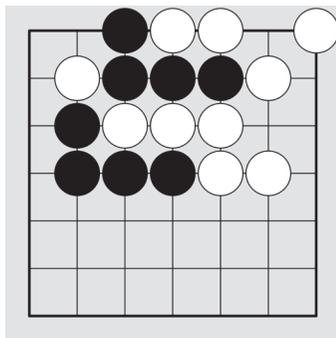
①のようにつながって逃げたつもりが、②でまとめて取られてしまいました。周りに相手の石が多い場所でただ逃げただけでは、取られてしまいます。先に相手の石を取ってしまいましょう。



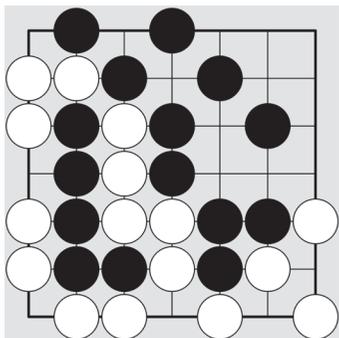
第 130 問



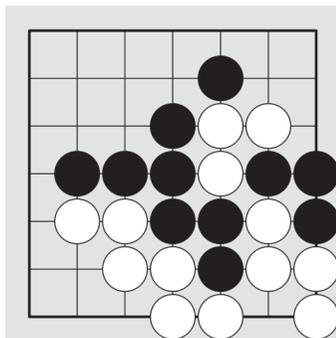
第 127 問



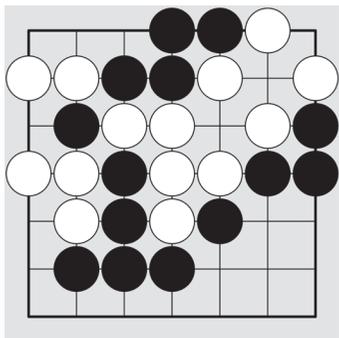
第 131 問



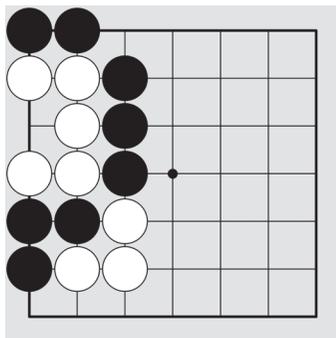
第 128 問



第 132 問

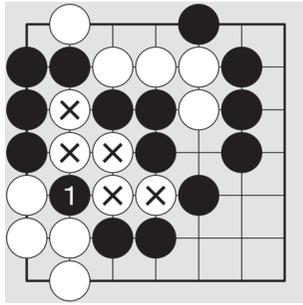


第 129 問

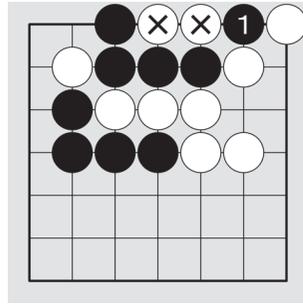


黒にとつて一番良い所に、一つ置いてください

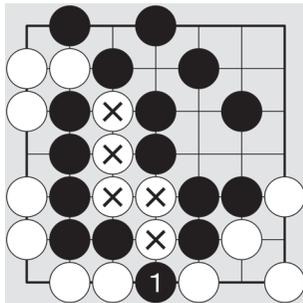
第 130 問



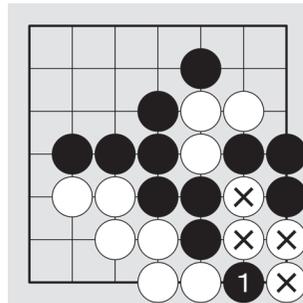
第 127 問



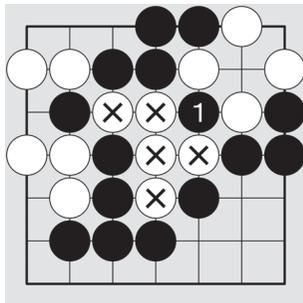
第 131 問



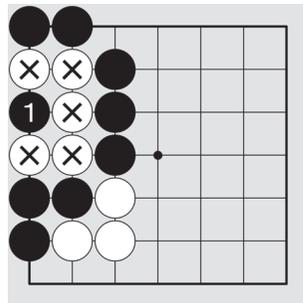
第 128 問



第 132 問

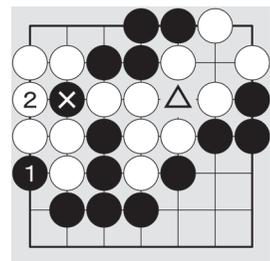


第 129 問

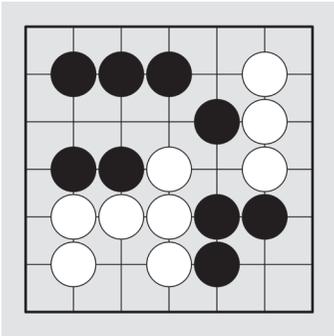


第 132 問 参考

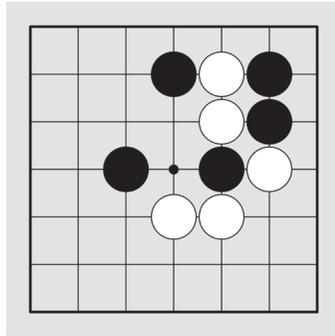
①に置いて白を取ろうとすると、②へ置かれて△を取られてしまいます。こうなると△は黒にとって「置いてはいけない場所」となり、白を取ることができなくなってしまいます。



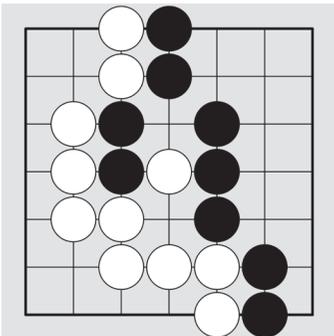
第 136 問



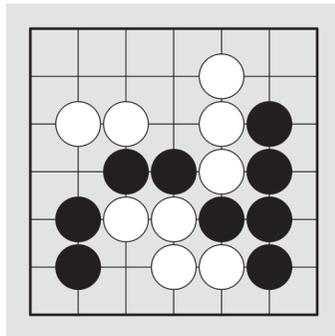
第 133 問



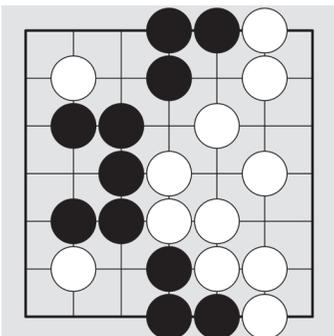
第 137 問



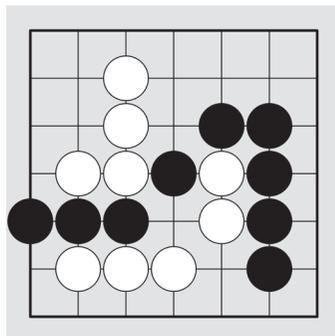
第 134 問



第 138 問

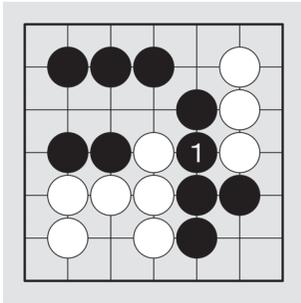


第 135 問

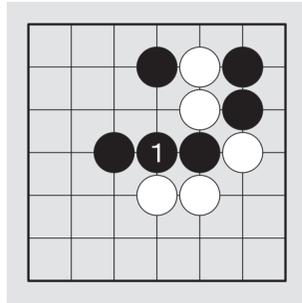


黒にとつて一番良い所に、一つ置いてください

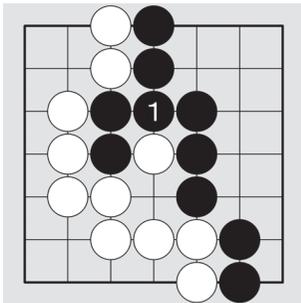
第 136 問



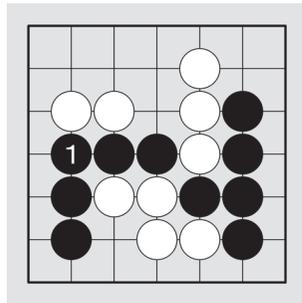
第 133 問



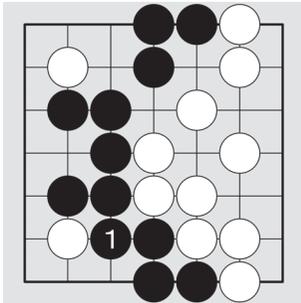
第 137 問



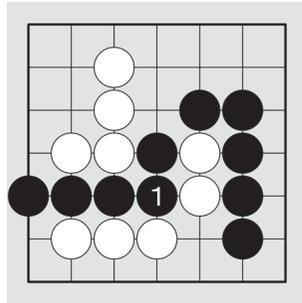
第 134 問



第 138 問

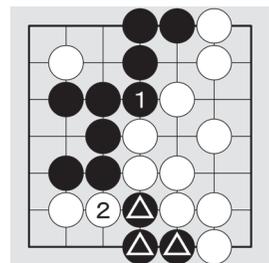


第 135 問

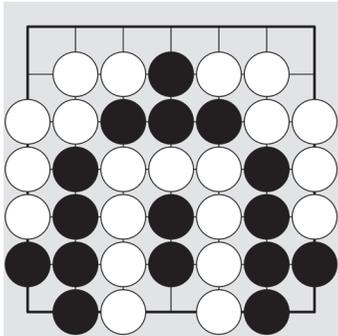


第 138 問 参考

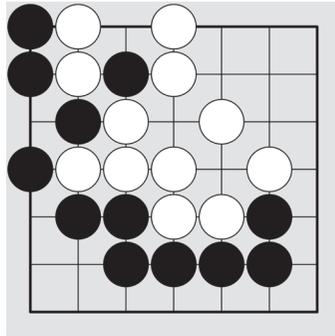
①で仲間とつながると、②で下の▲が切り離されてしまいます。この状態になると、▲の周りは白に囲まれていて助けることは困難です。上の黒石は白に切られても、まだ線はなくなりません。危険な石を見極めて、優先順位をつけて助けましょう。



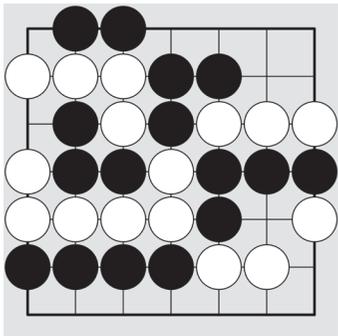
第 142 問



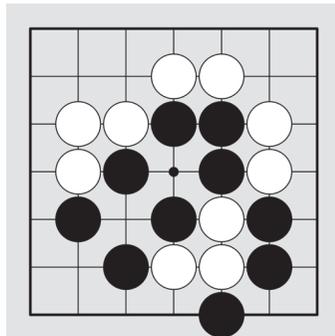
第 139 問



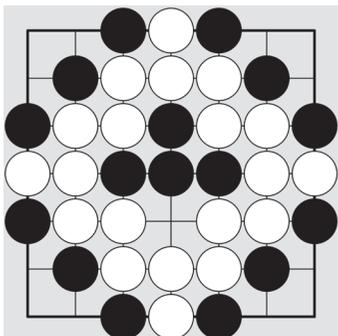
第 143 問



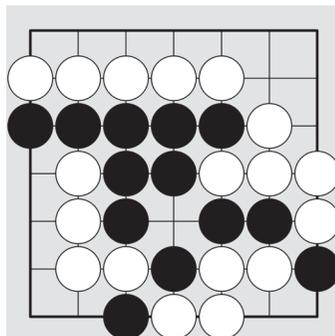
第 140 問



第 144 問

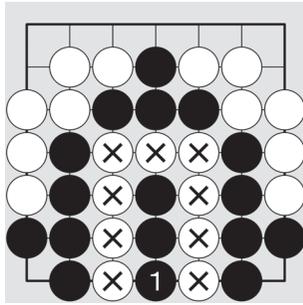


第 141 問

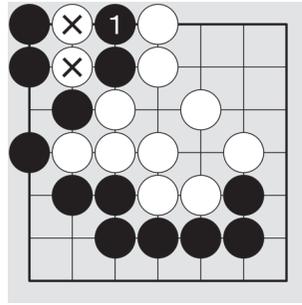


黒にとつて一番良い所に、一つ置いてください

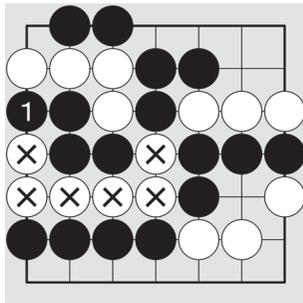
第 142 問



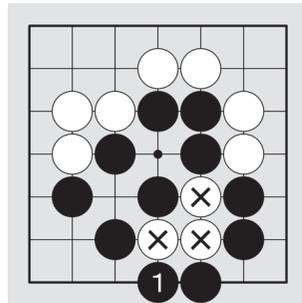
第 139 問



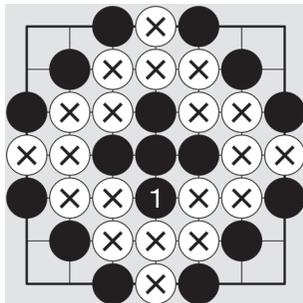
第 143 問



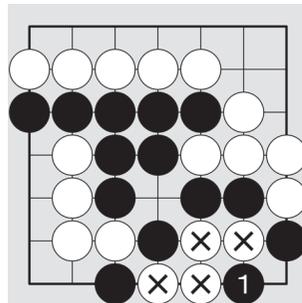
第 140 問



第 144 問

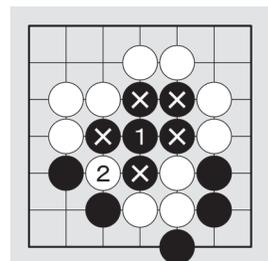


第 141 問



第 140 問 参考

①で周りの黒石とつなげて、危なかった黒3子を守ったと安心してはいけません。②で⊗6子がまとめて取られてしまいました。目先の危険に捉われず、置いた後にどうなるかを考えましょう。



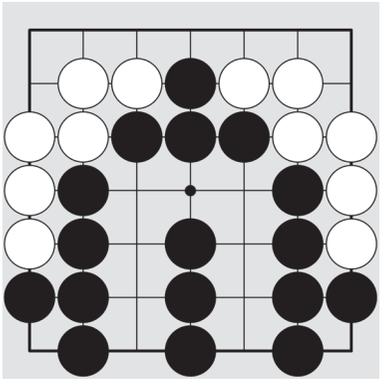
▼解説

1図は第142問の正解図から、白9子を取り上げた状態です。

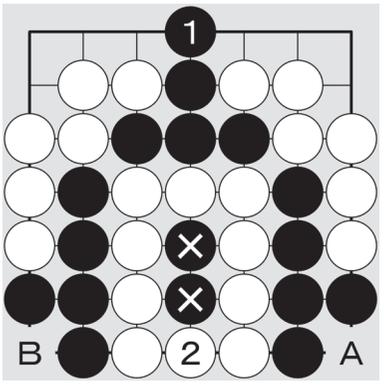
この状態であれば、中央から下一帯は黒石が多くなって、白が置いても助かりそうにない「黒の陣地」になったといえそうです。

それでは、失敗図をみてみましょう。**2図**の①で上のほうに逃げな

1図

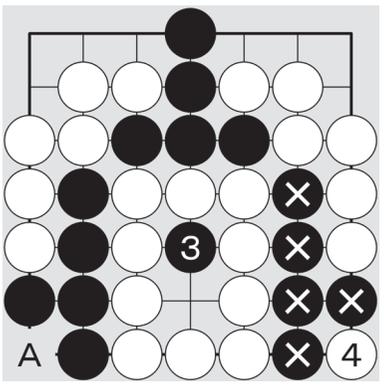


2図



↓ ……→ ●×2

3図



……→ ●×5

ら、左右の白6子を攻めようとする手は狙い過ぎです。②に置かれてしまふと②×2子が先に取られてしまいます。②の手では、A・Bへ置いて黒を取る手もあります。

こうして②×が取られると**3図**の状態になり、中央の白10子から出ている線が2本に増えてしまいました。

そこから**3図**の③で攻めても、白4(あるいはA)で③×5子が取られてしまいます。これでは盤上すべての黒石が危険な状態で、白を取るどころではありません。

お互いの石のつながりと出ている線の数をよく見て、戦い上手を目指してください。

おわりに

本書を読んでいかがでしたか。「やはり囲碁は難しい」と思われたでしょうか。それとも「思ったより簡単だった。これなら自分にもできそうだ」と手応えをつかんでもらえたでしょうか。手応えをつかまれた方は、『囲碁入門②』に進んで、新しいルールをおぼえてください。そして、難しく感じた場合は無理をせずに、理解できる所から繰り返し復習してみてください。

「盤上に石を置く」ということ、「置いた石達がつながって仲間ができる」ということ、そして「置いた石から線が出ていない石は盤上から取られる」を理解するまでが第一段階です。

そして、「盤上にお互いの石が増えるにしたがって、置けない場所ができてくる」ことがわかればしめたものです。この盤上には「置ける所と置けない所がある」ことが理解できれば、囲碁の目的であり、『囲碁入門②』のテーマである「陣地」を学ぶ下地ができたこととなります。これが第二段階です。

さらにルールを推し進め「置けなさそうな所でも、相手を取れる場合は置ける」や「相手の石を取れそうにみえるけれど、同じ形を繰り返すのでコウのルールで置けない」（『囲碁入門②』で説明します）ことが判断できるようになれば、ほぼ囲碁のルールはマスターしたといってもよいでしょう。

ここまで理解ができれば、盤上に交互に石を置いていき、お互いの石を取り合うだけのルールで対戦を試みてください。相手より多くの石を取ったほうが勝ちです。

さて、何度かお話ししたように、囲碁は盤上での生存競争であり、盤上にたくさんの石を残していったほうが有利になるゲームです。

現状で「盤上に生き残れる石はどれなのか」、それとも「盤上から取り除かれる石はどれなのか」がわかることが一番重要です。そして、盤上の置ける所・置けない所の見分けがつくようになれば、相手の縄張り（陣地）と自分の縄張り（陣地）が理解できたことになります。

一度に理解することは難しいかもしれませんが、ましてや対戦をしてみると、見たこともない形がたくさん出てきて戸惑うことばかりでしょう。しかし、落ち着いてルールやコツを思い出しながら、失敗を恐れず進めていけば何らかの結論が出ます。相手の石を取って自分の石が生き残れることもあれば、自分の石が取られることもあるでしょう。それらはいずれも成長するためには必要な経験なのです。結果の良し悪しではなく、過程を楽しみながら結果を素直に受け止める姿勢があれば、必ず囲碁が打てるようになるはずです。

『囲碁入門②』では、今まで学んだことを活用した「陣地」の考え方と、対戦の終わりである「終局」の考え方、そして対戦で獲得した得点を数えて勝敗を決める「得点計算」についての話になります。

本書では盤上に置いた石がテーマでしたが、『囲碁入門②』では、石を置いていない所・陣地が大切になっていきます。本書を学んできた皆さまにとって、石の置いていない場所について考えるということは奇妙に感じるかもしれません。

囲碁の終局方法は、他のゲームとちがって「対戦している二人で決める」という一見わかりにくいものです。得点計算では、数字が多くでてくるので面倒かもしれませんが。しか

し、どれも慣れてくれば「なるほどそうだったのか」と理解ができ、今よりも一層、囲碁の目的と仕組みがわかるようになります。

2ページでも述べましたが、囲碁が打てるということとは、「ルール通りに石を置いていき、最後までルール違反をせずにゲームを終えて、得点計算ができること」を指しています。まずは、最後までルールを守って無事にゲームを終えることを目指しましょう。囲碁は「白黒をつける」の語源になっただけの勝ち負けがはつきりつくものですが、ルールを完全におぼえる前に勝負や強さにこだわっていたのでは成長の妨げになります。

盤上で起こるさまざまなドラマや、無限の変化を楽しんでいただければと思います。

八段 水間俊文

囲碁入門① 〈7路盤〉

第4章

監修：棋士 水間 俊文

© NIHONKIIN All Rights Reserved.

〒102-0076 東京都千代田区五番町7-2

公益財団法人 日本棋院

☎ (03) 3288-8723

<https://www.nihonkiin.or.jp/>

本書掲載の文章・図版の無断複製・転載・印刷を禁じます。